

モンゴル地域研究のための基本文献

〈概説書、入門書〉

- 小長谷有紀編『暮らしがわかるアジア読本 モンゴル』河出書房新社、1997年
伝統文化、歴史から現代社会、経済の諸問題まで幅ひろいテーマがコンパクトにまとめられている。民主化のモンゴルについての代表的入門書。
- 金岡秀郎『モンゴルを知るための65章(第2版)』明石書店、2012年
モンゴルの牧畜、言語、宗教、歴史のなかの重要な項目をとりあげ、解説している。2000年版の改訂版。

〈歴史、地理〉

- 宮脇淳子『モンゴルの歴史 遊牧民の誕生からモンゴル国まで』刀水書房、2002年
騎馬遊牧民がモンゴリアにつくった諸国家の歴史をバランスよく叙述した通史。ポスト・モンゴル帝国の歴史にも十分なスペースがあたえられている。
- 松川 節『図説 モンゴル歴史紀行』河出書房新社、1998年
モンゴルにのこる遺跡や芸術作品をとおしてモンゴル史をヴィジュアルな面から理解するのに有用。
- 早稲田大学モンゴル研究所編『モンゴル史研究 現状と展望』明石書店、2011年
中世史から現代史までのモンゴル史の研究の状況を整理したモンゴル史研究案内。代表的な史料や研究文献が網羅されているので、全般的な理解にとって有益。
- 岡洋樹、境田清隆、佐々木史郎編『東北アジア』(朝倉世界地理講座—大地と人間の物語—2)朝倉書店、2009年
東北アジア、特にモンゴルの自然環境、歴史環境、社会環境について多面的な視点から述べた論文をあつめる。
- 岡田英弘『世界史の誕生』筑摩書房、1992年
中央ユーラシアの遊牧民がつくった諸帝国の自立した歴史をのべ、モンゴル帝国の成立が世界に与えた影響を世界史の枠組みのなかで論じている。
- 杉山正明『大モンゴルの世界 陸と海の巨大帝国』(角川選書)角川書店、1992年
あらたなモンゴル帝国像を意欲的にえがき、その世界史的意義をさまざまな角度から解説した、モンゴル帝国研究の代表的著作。

○ユ・ヒョジョン、ボルジギン・ブレンサイン編著『[境界に生きるモンゴル世界—20世紀における民族と国家](#)』八月書館、2009年

独立国モンゴルにはふくまれない、中国、ロシアに居住するモンゴル系のひとびとの歴史を民族とアイデンティティの視点からのべる。

〈文化、社会〉

○小長谷有紀『[モンゴル草原の生活世界](#)』朝日新聞社、1996年

牧畜民の1年のサイクル、乳製品の体系、肉食文化から結婚式、葬礼までモンゴル人の伝統的な生活をわかりやすく記述している。

○風戸真理『[現代モンゴル遊牧民の民族誌 ポスト社会主義を生きる](#)』世界思想社、2009年

社会主義体制が崩壊し市場経済化がすすむなかで、牧畜民がどのようなストラテジーで牧畜を維持してきたかを描く。文化人類学者によるフィールドワークの記録。

○藤田昇、加藤聡史、草野栄一、寺田良介編著『[モンゴル 草原生態系ネットワークの崩壊と再生](#)』京都大学学術出版会、2013年

地球環境の変化がモンゴルの草原、森林にあたえている影響、牧畜の現状、牧畜民の移住の問題を総合的に記述する。最先端の研究結果が反映されている。

○芝山豊、岡田和行編『[モンゴル文学への誘い](#)』明石書店、2003年

モンゴル文学の多様な世界を紹介した書物で、詩、散文作品の日本語訳もふくむ。古典文学や中国やロシアにすむモンゴル人の文学も紹介されている。2013年版([デジタルパブリッシングサービス社が印刷・製本するオンデマンド版](#))では、年表、参考文献が改訂されている。

○ハイシツヒ著、田中克彦訳『[モンゴルの歴史と文化](#)』(岩波文庫)岩波書店、2000年

モンゴル人の残した文学、歴史、宗教の諸文献にもとづき、20世紀を代表するモンゴル学者が一般読者むけに書いた高度な概説書。

○菅沼晃『[モンゴル仏教紀行](#)』春秋社、2004年

内外モンゴルの代表的な寺院をおとずれた記録。モンゴル人の精神文化のなかで中心的な位置をしめてきた仏教の現状をつたえる。

(2014年3月、二木 博史)